

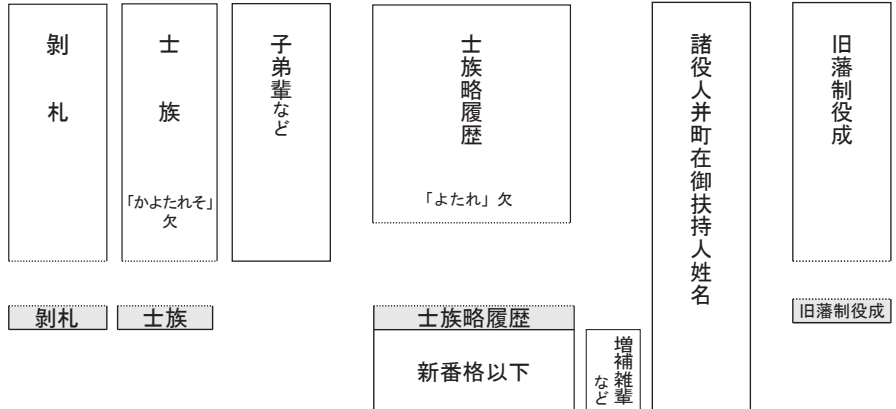
参考資料

各資料と家格などとの関係

福井藩家臣団の家格別人数  
(嘉永5年)

家格	人数
本多家	1
高知席	16
高家	2
寄合席	38
定座番外席	14
番士(役番外)	106
番士(大番など)	495
新番・新番格	81
医師・絵師など	49
士分合計	802
与力	39
小役人	84
一統目見席	87
小算・坊主・下代	347
諸組(足軽)	1,341
卒合計	1,898
家臣団総計	2,700

- ・荒子・中間等の小者973名を除く。
- ・舟澤茂樹氏「福井藩家臣団と藩士の昇進」『福井県地域史研究』創刊号 1970年による。



\* 嘉永5年の表にある与力39名は、慶応2年10月22日までに全員が士分として召し出されたため、「剥札」「士族」「士族略履歴」に記載されている。

\* なお、嘉永5年の表に載っていないが、元武生家来(府中本多家家臣。ただし物頭以上)の29名も明治2年11月25日の改革で士分とされたため「剥札」「士族」に記載されている。

「新番格以下」及び「新番格以下増補雜輩」「雜輩之類剥札」に掲載されている家数・人数

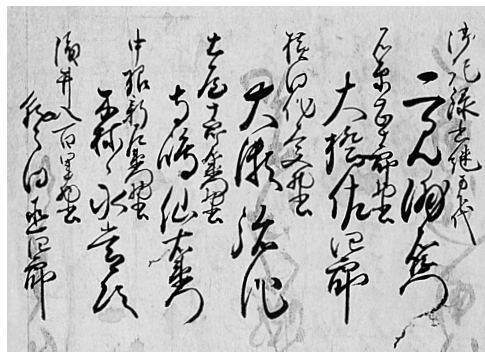
	新番格以下		増補雜輩 人数	剥札 人数
	家数	人数		
イ	27	115	30	1
ハ	30	117	12	
ニ	6	31	4	
ホ	7	36	2	
ト	12	56	2	
チ	1	1	2	
リ	1	1		
ヲ	35	135	10	
ワ	13	66	3	
カ	19	80	13	1
ヨ	28	104	12	
タ	44	183	13	2
ツ	10	41	7	
ネ	1	3		
ナ	18	78	5	1
ム	8	39	3	
ウ	8	42	8	
ノ	17	67		
ク	10	40		1
ヤ	25	98		2
マ	25	103	14	
ケ			1	
フ	16	64	10	1
コ	11	43	4	2
エ	8	27		
テ	2	8		
ア	16	69	7	
サ	25	109	9	1
キ	8	36	2	
ミ	8	43		1
シ	16	75	6	2
ヒ	6	22	4	
モ	7	28	2	
セ	2	7		
ス	4	17	2	1
合計	473	1983	187	16

- ・点線は原本の区切り。
- ・家数・人数のイ〜ムは確定値。ウ以下及び新番格以下増補雜輩・雜輩之類剥札は筆耕原稿などによる概数。
- ・新番格以下増補雜輩・雜輩之類剥札は家として管理されていないので人数のみ。

「書役」について

「新番格以下」1〜7、および「雜輩之類剥札」の巻末にはそれぞれ以下の「書役」が記載されている。「新番格以下増補雜輩」には記されていない。

「書役」について詳しくは吉田健「幕末維新期の福井藩人事関係資料(松平文庫)について」『福井藩士履歴 1 あ〜え』解説を参照。



書役名	「新番格以下」にみえる記事
御記録書継方下代 二見浦右衛門	(弘化四年九月) 同月十八日御目付御記録書継方下代被仰付候
石原甚十郎物書 大橋佐四郎	—
横田作太夫物書 大瀬弥作	(元治元) 同年六月廿四日昨秋詰中御目付御記録書継被仰付、格別出精相働候二付小寄合格二被成下、金五百疋被下置候
土屋十郎右衛門物書 寺嶋仙右衛門	天保六未年御目付大関新五左衛門組江被召抱 同十四卯年物書役被仰付
中根新左衛門物書 森永常次	御目付物書 森永儀兵衛(真柄)と同一人物か?
浅井八百里物書 鷺田直四郎	弘化四未年物書役被仰付 弘化四未年十月十九日江戸詰之処御呼返し、浅井八百里物書役被仰付